

平成 27 年度青年社会活動コアリーダー育成プログラム (内閣府国際交流事業) 視察会の報告

大分県発達障がい者支援センター長 五十嵐猛

平成 28 年 3 月 2 日に内閣府主催の青年国際交流事業青年社会活動コアリーダー育成プログラム参加者による発達障がい支援ネットワークの視察会が開催され、オーストリア、ドイツ、イギリスから障害福祉分野でチーフ役を務めている 13 名と、大分のコアリーダーや事務局である内閣府を合わせた約 20 名が社会福祉法人萌葱の郷に訪れました。

理事長の歓迎のことばを皮切りに、大分県発達障がい者支援センター長である私から大分県発達障がい支援ネットワークについて、大分県発達障がい支援専門員養成研修を軸に約 40 分間説明させていただいた後、その成果と課題等について 2 時間ほどコアリーダーの方々と意見交換を行いました。

事業紹介の冒頭では聖徳太子から引き継がれている「和を以て尊しとなす」の精神を重んじて異業種間交流を進めていることを伝えると、海外のコアリーダーから歓声があがり、日本文化への関心の高さをあらためて知ることができました。本養成研修は、これまでも支援者の専門性向上が図られたことと同時に、関係諸機関のネットワークが進んだことが国内にて評価されていますが、コアリーダーのみなさんからは、本研修を 1 からつくりあげた関係者の熱意と行動力を誇る言葉をたくさんいただきました。

意見交換の中では、西欧においてもスーパーバイザーの養成は盛んにすすめられていることや、その運営や活用、評価方法などを民間企業と連動しながらアピールしていることを教えていただくことができ、今後、私たちが SV の専門性向上を継続的に図ると同時に、個人やグループによる専門性や活動状況などについて、一般の方々にも見える形で情報提供をすすめていくことへの意識向上につながりました。

現場の視察においては、保育所と児童発達支援センターが併設していることや、研修終了後に就労支援施設どんこの里レストラン内で当事者が働いている姿を目にできたこと、利用者の作品を陳列販売していること等がインクルーシブの実施例として関心が集まりました。

